

プロジェクト型学級会の実践例

プロジェクト型学級会
 第5学年 学級活動
 議題「チームフォロープロジェクト」



人権教育の視点

複数の実践案について、それぞれの「よさ」を考えることを通じて、学級にとっての価値を見出し、比較することで、多くの児童が納得できる結論に到達する技能を育成する。
 また、合意形成に向かう話し合いを通して、自他の価値を見だし、尊重しようとする意欲や態度を育成する。

【ねらい】

話し合いのめあてを意識し、それぞれの案の「よさ」を考えながら、今の学級集団にとって必要な価値について、日常の学級生活を基に考え、合意形成に向かう話し合いをする。

【児童の変容】

自分と異なる意見も尊重しながら、合意形成に向かう話し合いを進めることができるようになった。

人権課題「外国人」に関わる取組の実践例

普遍的な視点からの取組
 第1学年 特別の教科 道徳
 「いろいろな くに」



人権教育の視点

「他国について知っていることや知りたいこと」について考えたことを伝え合う活動を通して、世界の人々や文化に親しみをもとうとする心情を育てる。

主題名「いろいろな くに」 内容項目「国際理解 国際親善」

【ねらい】

他国の人々に親しみをもち、自分たちと異なる文化の「よさ」に気付いて積極的に関わっていかうとする心情を育てる。

【主な学習内容】

他の国のことについての教師の話や友達との話し合いを通して、感じたことやもっと知りたいことなどの自分なりの考えをもつ。

【児童の変容】

世界にはどんな国があるのかを知り、他国に興味をもつことができた。

普遍的な視点からの取組から
 個別的な視点からの取組へ

個別的な視点からの取組
 第4学年 総合的な学習の時間
 「ともに生きようー外国人ー」

人権教育の視点

日本に在住する外国人と共に生きるため必要な社会の在り方について考える活動を通して、外国人に対する偏見や差別意識の現状を理解し、その解消に向けて自分たちができることを考える態度を養う。



【目標】

地域や日本に住む外国人に対する偏見や差別意識の現状について知り、課題を追究する活動を通して、偏見や差別なく互いの人権を尊重しながら共に生きていくために必要なことを考え、自分のこれからの生活に生かそうとする態度を育てる。

【主な学習内容】

- 日本や外国の生活習慣や文化について調べ、良さや違いについて理解する。
- 国際都市おおた協会 多言語相談窓口の方のお話を聞き、外国人への偏見や差別がある現状について知る。
- 外国人に対する差別解消のために、自分たちができることを考える。

【児童の変容】

立場や育った文化などの違いを認めたと上で、相手の立場で考えられることが増えた。